

# ご契約事例

## ケース1 95歳、男性、独居

若干の聴力の低下はあるものの、認知機能の低下はほとんど見受けられない。

妻は令和3年に亡くなり、子供はいない。

生活の支援や死後のことなどを含めて、相談したいとのこと。ご契約後自宅での生活を希望していたため、訪問介護、ディサービスをフル利用。

令和7年9月に自宅で転倒してしまい、当会で救急搬入を依頼し入院となる。

この間、公正証書遺言作成、葬儀、墓じまい、永代供養塔埋葬など葬送・死後事務等について当会及び弁護士とも打ち合わせをし、それぞれ事前の取り決めを行った。

令和7年10月に自宅で老衰によりご逝去された。

生前中に終活的取り組みを行っていたことと、相続人が多い中、代表相続人となってくれた方のご協力があったため、金銭的な清算を含めてスムーズに支援対応することができた。

令和4年8月ご契約

## ケース3 90歳、女性、独居

ケアマネージャーよりのご紹介。

夫は、10年以上前に他界。子供はいない。要介護1で若干歩行が困難で車いすが必要。

今後、施設入居を進めるも生活支援など身の回りのことをお願いする人がいないとのことで当会に入会することとなった。

ご契約後、介護施設に入居が決定し、そのための引越しの手伝いをはじめ、居室内のテレビや家具設置と身の回りの生活用品などを買い揃えた。

金銭の管理ができないため、金銭管理契約を締結する一方、今後は遺言書の作成や葬送・死後事務支援の打ち合わせを行うこととしている。

令和7年9月ご契約

## ケース2 74歳、女性、独居

肺臓癌末期で余命2ヶ月のことですぐにでも当会に入会したいとのご相談。

ご相談者は当会主催のセミナーにも参加されていて、事業内容については、ある程度理解されていた。兄がいるが疎遠。結婚歴はなく、子供はいない。

当会と契約を締結すると同時に直ちに入院をすることとした。その後緩和ケア病棟に転院し、入院に伴う生活支援はもとより、自筆遺言書の作成、金銭の管理、葬送・死後事務支援について打ち合わせを行い、万一の場合の取り組みを行った。

令和7年8月に黄疸症状が顕著となり、ご逝去された。当会が遺言執行人、祭祀主催者として、それぞれその職務を行った。

令和7年5月ご契約

## ケース4 76歳、男性、独居

当会セミナー参加や資料の取り寄せにより当会の事業概要については、ご理解されていた。

内臓の手術が迫っているのでその前に入会契約を済ませたいとのことと、退院後は自立型の施設に入居したいとのご希望。姉がいるが疎遠。

この間、遺言書の作成、墓所との打合せと前払いによる永代供養料の支払いを行った。

その後、自立型施設への入居契約を締結するとともに当会が身元保証契約の支援を行った。

今後は、自立型施設への引越しのお手伝いと手術後の身の回りの生活支援を予定している。

お元気なうちにすべて終活的取り組みを行った好例と思われる。

令和7年10月ご契約